

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	周産期医療体制の充実						掲載ページ
							72
コスト	事業費	平成26年度執行額	平成27年度予算額	政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり	担当局	保健福祉局
		9,999 千円	10,000 千円	施策名	母子医療	担当課	保健医療課

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか 全国的に産科医師が減少し、分娩できる医療機関も減少しており、母親が安心して出産し、子どもたちが健やかに成長するための取り組みが必要とされています。このため市内の4つの基幹病院において、リスクの高い分娩や高度な治療が必要な新生児に対する専門的な医療を効果的に提供するとともに、正常分娩を担当する病院・診療所との役割分担による連携を図ります。また、北九州市医師会が行う医師確保に関する事業へ助成を行い、周産期医療の安定的な提供や充実に寄与していきます。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動計画	全国的に産科医師が減少し、分娩できる医療機関も減少しています。このため、本市における周産期に関わる連携体制の維持に努めます。また、これらの体制を維持するために、引き続き北九州市医師会が実施する後期臨床医への研修等に助成を行うとともに、これらの医師確保事業のPRに努めます。					
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	後期臨床研修医への支援 北九州市医師会が、産婦人科及び小児科の医師を対象に、市内の複数の医療機関で実施する後期臨床医への研修等に助成を行い、これらの医師の定着を図り、安定的な医師確保に努めます。 （最終目標と最終年度）	—	後期臨床研修への助成を行い、安定的な医師確保に努めます。	—	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	医療講習会等の開催 北九州市医師会が医療関係者の知識の向上を図るために開催する周産期医療や小児救急医療に関する講習会や、周産期医療体制について検討する協議会等への助成を行い、周産期医療等の充実に努めます。 （最終目標と最終年度）	—	講習会や協議会等への助成を行い、周産期医療等の充実に努めます。	—	順調 やや遅れ 遅れ	大変順調

【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析 活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	全国的に産科医師が減少し、分娩できる医療機関も減少しています。このため、本市においては市内の周産期にかかわる病院等を、健診のみを行う診療所等から難産等に対処する基幹病院などに役割を分担した連携体制を構築しています。また、北九州市医師会が実施する後期臨床医への研修への助成を行い、医師確保を支援していく必要があります。これまでに、これらの研修を受けた研修医は、その後、市内の医療機関に勤務しており、成果の状況は大変順調と考えています。
	「経済性」「効率性」の分析 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	北九州市医師会が行う後期臨床研修は、周産期においては市内の4基幹病院で研修を実施するものであり、小児科についても、その領域すべてにおいてトップレベルの専門研修が実施されており、これらの研修を受けた研修医は、その後、市内の医療機関に勤務しています。また、研修期間中の医療事故などに対応する賠償責任保険には市医師会を通じての加入が可能となっています。これらの魅力ある研修病院を活用し、北九州市に勤める研修医を確保するため、北九州市医師会が実施する本研修に助成を行うことは、本市の周産期医療及び小児科救急医療の確保に効率的であると考えます。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

引き続き、助成等を行うことにより、周産期に関する専門的な医療の提供及び医師の確保を図り、医療体制を充実していきます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	周産期医療体制の充実						掲載ページ		
							72		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり	担当局	病院局
		1,412,784	千円	1,572,624	千円	施策名	母子医療	担当課	経営課課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	出産前から出産後まで母子に対する専門的な医療の提供のため24時間体制を確保します。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	北九州市では、分娩を行う病院の減少に適切に対応するため、産科連携体制を整備しています。このうち、市立医療センターでは、ハイリスク分娩等を受け入れるために総合周産期母子医療センターを設置しており、このセンターでの周産期医療の提供のため、必要な医師の確保や必要な医療器械の更新などを行います。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】	
	必要な医師の確保や必要な医療器械の更新など						
	総合周産期母子医療センターにおける周産期医療の提供のため、必要な医師の確保や必要な医療器械の更新などを行います。 （最終目標と最終年度）	運営体制の確保・充実	運営体制の確保・充実	運営体制の確保・充実	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	（最終目標と最終年度）				順調 やや遅れ 遅れ	順調	

【Check】評価（分析）		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 成果や活動の状況については、必要な医師の確保や必要な医療器械の更新などを行ったことで、総合周産期母子医療センターにおいては24時間体制での周産期医療の提供ができたため、順調としています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 市立病院では、公立病院の果たすべき役割を踏まえ、民間病院では採算性の確保が困難な政策的医療として周産期医療を24時間体制で提供しています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
全国的な医師不足の状況ではありますが、引き続き必要な医師の確保や必要な医療器械の更新などにより、医療体制（24時間体制）の確保に努めます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	小児救急医療体制の充実						掲載ページ
							72
コスト	事業費	平成26年度執行額	平成27年度予算額	政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり	担当局	保健福祉局
		2,625 千円	3,130 千円	施策名	母子医療	担当課	保健医療課

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか 小児救急医療については、市立八幡病院内での小児救急センターの開設や、小児救急ネットワークの構築など小児救急医療体制の充実に取り組んでおります。今後とも、小児救急医療に関する研修を実施するなど小児医療体制をさらに充実し、小児救急に関する先進都市を目指します。	活動実績 活動結果は下記のとおりです。
活動計画	小児救急医療における様々な問題について検討を行うため、小児救急ネットワーク部会を開催するとともに、医師・看護師の資質向上のためのワークショップを開催しています。また、引き続き本市の取り組みについてPRを行っていきます。さらに、新型インフルエンザが発生した場合には、これまでの取り組みを活かし、早急かつ効果的な対応ができる小児救急医療体制の整備に努めます。	

活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
		小児先進都市づくり会議等の開催 小児救急センターや小児救急ネットワーク体制の維持確保を図るとともに、小児科医の確保やかかりつけ医の定着促進などについて協議を行い、小児医療の先進都市を目指します。このため、小児先進都市づくり会議や、この部会である小児救急ネットワーク部会を開催します。 （最終目標と最終年度）	—	小児医療の先進都市を目指すため、先進都市づくり会議等を開催します。	—	大変順調
	小児救急医療ワークショップの開催等 小児救急医療に携わる医師、看護師等を対象に、実践的な手技手法が学べるワークショップを開催し、関係者の技術の向上を図るとともに、本市の小児医療に関する取り組みを市内外の医療関係者等にアピールします。 （最終目標と最終年度）	—	医療関係者の技術の向上を図り、本市の取り組みをアピールするためワークショップを開催します。	—	順調 やや遅れ 遅れ	大変順調

【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析 活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	小児救急医療関連の議題（ネットワーク事業など）をテーマにネットワーク部会を開催し、先進都市づくり会議では、これらに関する取り組み結果や成果について報告するとともに、虐待対応、療育医療など小児救急に関する議題について協議を行い、関係機関との連携を図ったことから、「大変順調」としました。また、ワークショップについては、第9回の開催を行い、全国から191人（申込者213人）の参加がありました。
	「経済性」「効率性」の分析 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	先進都市づくり会議やネットワーク部会などを適時必要に応じて開催しています。ワークショップについては、これまでの実施状況・研修内容等について検討を行い、経済性や効率性を高めていきたいと考えます。 児童虐待の対応など、個人情報の問題や心情的な配慮などが必要であり、関係機関との連携が難しい面や情報共有のあり方が課題となっています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

先進都市づくり会議やネットワーク部会などを適時必要に応じて開催します。ワークショップについては、これまでの実施状況・研修内容等について検討を行い、経済性や効率性を高めていきたいと考えます。
児童虐待の対応など、個人情報の問題や心情的な配慮などが必要であり、関係機関との連携が難しい面や情報共有のあり方が課題となっています。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	小児救急医療体制の充実						掲載ページ		
							72		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり	担当局	病院局
		948,546	千円	1,022,771	千円	施策名	母子医療	担当課	経営課課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	1次（初療）から3次（重篤）までの小児救急医療の提供のため24時間体制を確保します。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	北九州市では、市内の小児科を有する医療機関との連携を図り、小児救急医療体制を整備しています。このうち、市立八幡病院では、同体制の中心となる小児救急センターを設置しており、このセンターでの小児救急医療の提供のため、必要な医師の確保や必要な医療器械の更新などを行います。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】	
	必要な医師の確保や必要な医療器械の更新など	運営体制の確保・充実	運営体制の確保・充実	運営体制の確保・充実	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	小児救急センターにおける小児救急医療の提供のため、必要な医師の確保や必要な医療器械の更新などを行います。 （最終目標と最終年度）						
					順調	順調	
（最終目標と最終年度）				やや遅れ			
				遅れ			

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	成果や活動の状況については、必要な医師の確保や必要な医療器械の更新などを行ったことで、小児救急センターにおいては24時間体制での小児救急医療の提供ができたため、順調としています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	市立病院では、公立病院の果たすべき役割を踏まえ、民間病院では採算性の確保が困難な政策的医療として小児救急医療を24時間体制で提供しています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
全国的な医師不足の状況ではありますが、引き続き必要な医師の確保や必要な医療器械の更新などにより、医療体制（24時間体制）の確保に努めます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	乳幼児等医療費支給事業						掲載ページ		
							72		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり	担当局	子ども家庭局
		2,532,373	千円	2,587,200	千円	施策名	母子医療	担当課	子育て支援課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	乳幼児等の健康の保持と健やかな育成を図るため、乳幼児等の保険診療による医療費の自己負担額を助成します。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。
活動計画	現行制度を継続して実施します。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】	
	医療費支給制度の維持	—	—	—	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	制度を維持し、子育てにかかる経済的負担を軽減することで、経済面における子育ての悩みや不安を感じる人の割合は減少すると予想されるため、指標として設定しました。 （最終目標と最終年度）					順調	

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	制度を維持することで、経済面における子育ての悩みや不安を感じる人の割合の減少につながったと考えられることから、施策に対する効果は高いと考え、順調としました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	保険診療による自己負担額を助成する制度であり、代替手段は考えられません。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
乳幼児等の健康の保持と健やかな育成を図るため、現行制度を継続して実施すると同時に、持続可能で安定的な制度とするため、財源確保の問題も含め、制度のあり方を検討します。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	母子公費負担医療費助成および医療給付						掲載ページ		
							72		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり	担当局	子ども家庭局
		264,164	千円	338,900	千円	施策名	母子医療	担当課	子育て支援課

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか 妊娠中の疾病や未熟児・心身障害児の重症化を抑制するとともに、保護者の医療費負担の軽減などを行うため、医療の給付や医療費の公費負担を行います。また、保護者の心身の負担軽減や療育生活の充実を図るため、家庭訪問等による支援を実施します。	活動実績 活動結果は下記のとおりです。
活動計画	妊娠中の疾病や未熟児・心身障害児の重症化を抑制するとともに、保護者の医療費負担の軽減を図るために、事業の継続します。	

活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	活動指標	小児慢性特定疾患の給付実人数 疾病の重症化を抑制するとともに、経済的負担を軽減するため、公費助成は必要であることから、活動指標としました。 (最終目標と最終年度)	692 人	-	695 人	大変順調
自立支援医療（育成医療）の給付実人数 障害の重症化を抑制するとともに、経済的負担を軽減するため、公費助成は必要であることから、活動指標としました。 (最終目標と最終年度)		154 人	-	159 人		
未熟児養育医療の給付実人数 未熟児の養育に必要な医療について、経済的負担を軽減するため、公費助成は必要であることから、活動指標としました。 (最終目標と最終年度)		219 人	-	214 人	順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析 活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	公費助成を行うことで、経済的負担を軽減し、各疾患の疾病や障害の重症化を抑制できていると考え、順調としました。
	【経済性】 【効率性】の分析 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	母子保健法、児童福祉法、自立支援法及び国の要綱等に基づき実施し、医療各保険法に基づく医療費助成のため、制度を維持することは必要です。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

疾病や未熟児、心身障害児の重症化を抑制するとともに、保護者の経済的負担の軽減を図るため、事業の継続は必要です。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	予防接種事業						掲載ページ		
							73		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり	担当局	保健福祉局
		1,898,093	千円	2,653,965	千円	施策名	母子医療	担当課	生活衛生課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	予防接種法に定められた対象疾病のうち、ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ混合、ジフテリア・百日せき・破傷風混合、ジフテリア・破傷風混合、麻しん・風しん混合、日本脳炎、結核、ヒブ感染症、小児用肺炎球菌感染症、ヒトパピローマウイルス感染症（子宮頸がん）、高齢者インフルエンザのワクチン接種を各医療機関で行い、その接種率の向上を図る。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	未接種者への勧奨を強化します。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】	
	麻しん・風しん接種者数	15,763 人	15,730 人	15,929 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動を参考し、活動の状況をチェック	
	予防接種の接種率の促進を図るため、麻しん・風しんの接種者数を活動指標としました。 （最終目標と最終年度）平成26年度も引き続き接種率95%以上			101.3 %			
						大変順調	
（最終目標と最終年度）							

【Check】評価（分析）		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 生後2ヶ月後の郵送での予診票送付や、就学前健診時のチラシ配付、小学校を通じての接種勧奨チラシの配付などの接種勧奨をしました。また、10月及び2月に2期の未接種者に勧奨ハガキを送付するなど、活動は順調でした。今後も国の目標値である95%以上の接種率達成のため、引き続き、1、2期対象者に対する個別送付などによる接種勧奨を継続していく必要があると考えます。 なお、24年度までは1～4期までありましたが、25年度から3期・4期は終了しました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 法律上、原則個別接種であるため、経済性や効率性の観点からの議論は困難です。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
今後も、1期・2期対象者に対する予診票や接種のお知らせの個別送付を継続します。また、予防接種台帳システムによる、未接種者の把握・積極的勧奨を継続します。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	国民健康保険の減免制度(多子減免制度)						掲載ページ		
							73		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり	担当局	保健福祉局
		176,495	千円	176,194	千円	施策名	母子医療	担当課	保険年金課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	子育て支援の観点から、2人以上の子等を扶養する世帯の国民健康保険料の一部を減免します。		活動実績	実績は下記のとおりです。		
活動計画	前年の世帯の総所得金額等が300万円以下で、18歳未満の2人以上の子等を扶養する世帯において、国民健康保険料のうち所得に対する部分(所得割額)を減額する制度を実施します。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】	
	多子減免該当者への申請書(往復はがき)の送付と減免申請の促進	14,689 件 (送付・窓口受領総件数)	-	13,937 件 (送付・窓口受領総件数)	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	子育て支援の観点から、子育てをしている一定の条件を満たす世帯を抽出し、世帯主の申請に基づき所得割額の一部を減免するため、申請書を送付し減免申請の促進を図るものです。 (最終目標と最終年度)					順調	
(最終目標と最終年度)				やや遅れ	大変順調		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	毎年6月に対象世帯あて申請書(往復はがき)を一括送付し、新規加入、出生等で新たに対象となった世帯には月ごとに申請書を送付し、減免制度の促進を図りました。また、10月と2月に対象となる未申請世帯に対して申請書を再送付し、減免申請の促進を図りました。 以上のことから、活動状況は「大変順調」としました。 子育て支援の減免制度として有効に機能していると思われます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	国保システムでの運用により経済的、効果的な運営を行っています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
今後とも、子育て支援の観点から多子減免制度の維持を目指します。 また、市政だよりやパンフレット等を通じて多子減免制度のPR活動に努め、幅広く周知を図ります。